

事業所における 自己評価結果（公表）

公表：令和 5 年 12 月 1 日

事業所名 コベルプラス横須賀教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		集団療育では、広い部屋を使用している。	今後も、ご利用者様が過ごしやすい環境美化に心がけて参ります。
	②	職員の配置数は適切である	4	1	集団療育では、補助が入り、安全に療育が行えるようにしている。	今後も必要な際に指導員が支援できるようにしていきます。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5		フロアにマットを敷いている。 予約状況などをLINEで確認できるようにしている。	ご利用者様が、安心して過ごすことができるような快適な環境を提供し、維持して参ります。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5		毎朝、隅々まで消毒等を行い清掃を行っている。療育後には毎回掃除機をかけている。	今後もご利用者様が安全に過ごすことができる快適な環境を維持し、定期的な点検に努めていきます。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5		職員会議を行っている。	引き続き、職員会議などで子どもの様子を共有できるようにしていきます。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		ホームページに掲載している。	アンケートにより保護者様から頂いたご意見をもとに職員間で情報共有し改善に努めていきます。 また、評価表の実施により事業所としての課題も明確になってくるので、真摯に受け止め、迅速に対応し改善していきます。

	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5		ホームページに掲載している。	保護者様からのアンケート調査結果、及び施設の自己評価から、改善点に対するアイデアを出し、共有していき施設の安全面や心地よい雰囲気や支援の質を高めるよう心掛けていきます。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		5	現在実施していない。	(第三者評価実施無し)
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		オンラインの研修を行なっている。	本部の研修に基づいて行っている。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5		アセスメントの結果を会議で共有して、個別支援計画を作成している。	アセスメントの際に保護者様のご要望や求めるニーズをしっかりと聞きとり、支援に生かしていきます。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5		アセスメントシートに沿って実施している。	標準化されたアセスメントシートとアセスメントツールを使用しています。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5		会議を行ない、お子様の課題点をふまえて内容を設定している。アセスメントやモニタリングを行い、会議で情報を共有し、支援内容を設定している。	ガイドラインをもとに、お子様の特性や保護者様のご意向、求めるニーズ、アセスメント内容を踏まえて、個別支援計画を作成しています。

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5		職員が情報を共有し、引き継ぎを行っている。	今後も職員間で情報の共有と確認を行っていきます。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	5		基本は守りつつ、職員で話し合っ決めていく。	その都度、よりよい支援方法を議論しながら、様々な活動プログラムが行えるようにしていきます。

	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		個々の興味に合わせて教材の順番の変更などを行っている。 毎月異なる教材を使用している。	今後も、活動プログラム内容が、固定化しないようにしていきます。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	5		コミュニケーションの課題や希望者には、集団療育も併用して行っている。	今後も職員全員で会議を行ない、支援計画を作成していきます。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		毎朝打ち合わせを行い、担当する児童の連絡ノートを確認している。	これからも朝の打ち合わせや連絡ノートで子どもの様子を共有していきます。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		連絡ノートに記入している。	連絡ノートを活用し、職員全員で情報を共有していきます。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		連絡ノートに子どもの様子を記入している。	連絡ノートを活用し、職員全員で情報を共有していきます。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5		6か月ごとに行なっている。 職員で話し合い、意見を共有している。 職員会議やモニタリングの会議で情報を共有して話し合いをしている。	会議などの時間で職員一人一人の意見を参考にしながら具体的な達成目標や支援内容について、話し合いを行っていきます。
関係機関や保護者	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5		児発管が参加している。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5		定期的にモニタリングで情報を共有している。	療育相談センターとの連携を図り、モニタリングの際には事業所の様子をお伝えしています。

との連携関係機関や保護者との連携	⑳	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		5	実施していない。	
	㉑	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		5	実施していない。	
	㉒	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5		希望により、幼稚園の先生などが見学にきている。	
	㉓	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		5		今後検討していきます。
	㉔	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	1	療育相談センターや児相等とは、モニタリング等で連携を図っており、児童の様子や保護者の状況について報告を行っている。	今後も研修などにも参加できる機会があれば連携を図っていきます。
	㉕	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	4	現状では難しいと思う。	療育の性質上、なかなか交流を持つことは難しい状況です。

	㉖	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		5	特にしていない。	
	㉗	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		フィードバック時に療育の様子や家庭での様子などを伝え合っている。	フィードバック等で話した内容や相談、支援内容等を職員同士で確認し、共通理解していく機会をさらに増やしていきたいと思います。
	㉘	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5		10月より開始する。	10月より、ペアレントトレーニングを始めています。
保護	㉙	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		契約時に説明している。	今後も契約時に丁寧に説明していきます。

者 へ の 説 明 責 任 等	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5		職員全員で職員会議やモニタリングを行っている。その後、支援計画を作成し保護者から同意を得ている。	個別支援計画書にはガイドラインと支援内容との関係性を示し、具体的な支援内容を設定して丁寧に説明していきたいと思います。
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		希望があれば相談支援を行っている。フィードバック時に相談を受けることがあり、その時は速やかに児発管に報告している。	今後ご利用者様とのコミュニケーションをしっかりと取りながら、お悩みやご相談があった際には、面談等の時間を設けていき、ご相談を親身に受け止め職員全員で共有し、助言や支援に繋がりたいと思います。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		5	実施していない。	今後検討していく。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5		相談などですぐに対応出来ない場合は、児発管に確認をとり返答するようにしている。	今後も引き続き、ご相談を頂いた際には迅速な対応をしていきたいと思います。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		ブログを掲載している。	ブログの更新頻度を高めるようにしていきます。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	5		大切に保管している。ファイルは施錠できる書庫に収納している。	今後も個人情報の保護には細心の注意を払い、業務を行っていく。個人が特定できる内容が記載された文書等は、シュレッダー処理をしています。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5		職員間で共有している。	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		5	実施していない。	事業所の性質上、なかなか難しい。

非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5		定期的に見直している。	今後もマニュアルに基づいて、確認や訓練などを実施していきます。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		避難訓練では保護者と子どもも参加して実施している。	引き続き、ご利用者様も参加して実施できるようにしていきます。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5		契約時やアセスメント時に確認している。	今後ご利用者様にアセスメントや契約時に確認をしていきます。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		5	食事をしていない。	食物の提供が無い。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		職員間で共有し、報告書を作成している。	ヒヤリハットに該当する事例が起こった場合は報告書を作成しています。 職員間で対応策を検討し、再発防止に努めています。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	1	オンラインの研修などに参加している。	コペルプラス本部の研修を受けています。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5		契約時に確認している。	今後も契約時に説明をしていきます。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。